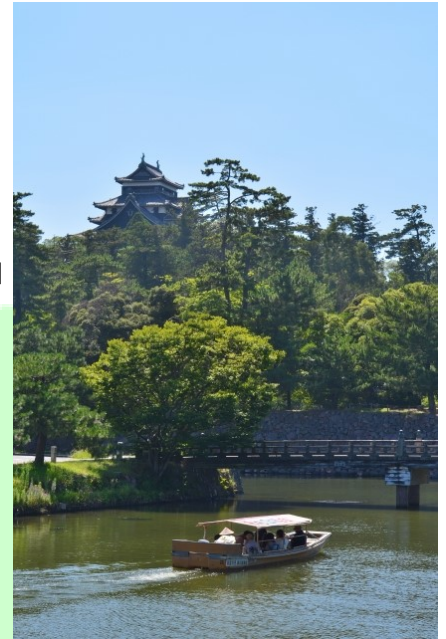


Support for Woman Doctors ～私からあなたへ～

川又 あゆみ 先生【島根県 34 期】
お子さん 2 歳、0 歳

【松江城】



はじめまして、島根県 34 期、卒後 9 年目の川又(旧姓:門脇)あゆみです。

学生の頃から大変お世話になりました、牧野先生よりニュースレターに原稿を書かせていただくお話をいただき、私の 9 年間に綴ってみました。

私は、卒業後島根県立中央病院で 2 年間の初期研修の後に、隠岐の島や広島県との県境に位置する山間部の 50～100 床規模の中核病院や診療所で勤務してきました。そして今年度、松江赤十字病院乳腺外科で後期研修を取らせていただいています。

もともと、小児科医になりたいと大学に入学しましたが、学生時代、外科をローテートした時から、診断、薬物療法、手術、再発転移、ターミナル…と長期間に渡って一人の女性に関われる乳腺外科に興味を持つようになりました。

ところが、島根県では内科医としての派遣先しかないのが現実でした。もちろん初めは 3 年目から好きな診療科に進める同期が羨ましくて仕方ありませんでした。

しかし、義務年限内のどの派遣先でも、先輩、後輩、医療スタッフはもちろん、地域の方々に恵まれ、充実した日々を過ごすことができました。どんな患者さんにも真摯に向き合い、医療資源の少ない地域で奮闘する先輩方の熱い指導を受け、多くの患者さんやスタッフの皆さんの温かさに触れ、徐々に総合診療の魅力に惹かれてきました。それと同時に、結婚・出産という一大イベントもあり、現状維持がベストで新たに外科というフィールドへ挑戦することは考えられないな…という思いが強くなってきました。しかし、変わった経歴をもつ夫(警察官時代に小学校教諭を目指し、再度大学へ編入)と出会い、「人生 1 回しかないんだから」という言葉に後押しさ

れ、9 年目で外科専門医、乳癌専門医取得を目指すことになりました。

私生活の方では、卒後 6 年目、9 年目に二人の息子を出産しましたが、ここでも変わり者の夫が、息子たちがそれぞれ 1 歳になるまで 2 度も育児休暇を取得してくれたこともあり、何とか 9 年間で義務年限を終えることができそうです。

私は体力には自信があり、出産するまでは、男性医師と変わらない回数の当直、仕事量をこなすことくらいできると自負しておりました。しかし、現実はその甘くはありませんでした。長男一人の時には、何とかカンファレンスに連れて行ったり、病児保育、看護師さんや他の先生にみていただきながら呼び出しにも対応したりしてきました。今回、次男出産後は、やはり仕事をセーブせざるを得ない場面が多々あり、思うように働けない自分と、育児になかなか手を抜けない自分との間で葛藤する毎日です。一方で、母となったからこそ患者さんの不安に共感できることもあります。また息子は小さいながら、「おかあちゃん、おしごとがんばってね」と応援してくれています。こうして何とか家族や周囲の方々に助けられ楽しく働くことができています。

そしてこの春、義務年限を終え、ようやく夫の住む広島県で家族 4 人の生活が始まります。私自身は、医局へ入局し、大学院へ入学し、仕事面でも新たな局面を迎える予定です。まだまだ仕事も育児も中途半端ではありますが、その時その時を大切にマイペースに前進していきたいと思えます。

後輩医師・学生へ一言メッセージ

『人生一度きり、いろんなことに挑戦してみてください』

「自治医大卒業生 女性医師支援 NEWS」では、読者の皆様からのご意見をお待ちいたしております。特集記事のテーマ、絵本やその他のコーナーについても、ご希望などあれば、是非お寄せください。
連絡先: 自治医科大学 地域医療推進課 卒後指導係
E-mail: chisui@jichi.ac.jp